

事務事業評価シート

(評価対象年度：令和2年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		狂犬病予防事業				②事業番号		4213	
③事業類型		1. 法上(必須)事業		④開始年度		昭和		⑤終了予定年度	
⑥根拠法令等		○ 法令		○ 条例		○ 規則		○ 要綱	
⑦実施手法		直営		○ 全部委託		○ 一部委託		補助・負担	
⑧関連予算科目コード		款		4		項		1	
⑨担当部名		健康子ども部		⑩担当課名		保健推進課		会計	
								一般会計	

2. 事務事業の現状把握【DO】

【1】事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 犬の飼い主、飼犬	① 飼犬登録数	頭
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
狂犬病予防事業として、下記の事業を実施している。 ・狂犬病集合注射に関する調整事務・飼犬登録事務・狂犬病注射済票交付事務・捕獲犬の告示・飼育マナー教育・狂犬病予防に対する普及啓発	① 飼犬登録委託動物病院数	か所
	② 集合注射開催場所数	か所
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
犬の飼い主が狂犬病に対して正しい知識をもち、飼犬の登録と予防接種を確実に行うことが必要であり、また、飼育マナーを守ることにより、公衆衛生の向上を飼い主に理解してもらう。	① 狂犬病予防接種数	頭
	② 飼犬新規登録数	頭
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
飼犬の登録、飼犬への予防接種の必要性を周知し、狂犬病発生の予防を図る。予防接種の接種率を向上させ、感染症などの予防を図る	政策(章)	2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち
	施策大(節)	2 すべての市民が生涯にわたって健康な生活を送れるまちをめざします
	施策中	2 健康づくりの推進
	施策小	3 予防接種事業の充実

【2】各種指標値、事業費の推移

指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標① 飼犬登録数	頭	3,806	3,794	3,805	3,805	3,805	指標値の推移における特殊要因などの説明
活動指標① 飼犬登録委託動物病院数	か所	5	4	4	4	4	
活動指標② 集合注射開催場所数	か所	27	27	2	27	27	
成果指標① 狂犬病予防接種数	頭	1,887	1,856	1,696	1,696	1,696	R2年度見込集合注射開催数の減少要因はコロナウイルスにより感染拡大防止策として中止となったため。
成果指標② 飼犬新規登録数	頭	163	190	257	257	257	
事業費							
投入人員	人	0.30	0.25	0.40	0.40	0.40	事業費などの推移における特殊要因などの説明
正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業費	千円	2,432	1,928	3,053	3,053	3,053	平成30年度～平成31年度にかけて直接事業費が増加している原因は平成31年度に飼犬登録システムの保守期限が切れるためシステム更新作業が必要になり委託料が増加したため。(Windows7保守期限切れのため)
人件費(投入人員*単価)	千円	613	1,142	673	597	597	
直接事業費	千円	3,045	3,070	3,726	3,650	3,650	
総事業費	千円						
財源内訳							
国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
府支出金	千円	39	30	38	38	38	
受益者負担金	千円	1,533	1,590	1,708	1,708	1,708	
その他特定財源	千円	0	0	0	0	0	
一般財源	千円	1,473	1,450	1,980	1,904	1,904	

【3】事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	狂犬病予防法(昭和25年)が制定される以前は、日本国内で多くの犬が狂犬病と診断されヒトも狂犬病に感染していた。狂犬病予防法に基づき実施している。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	狂犬病予防法が施行され狂犬病は撲滅されたが、依然海外での発生はみられるため、予防事業は重要である。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[1]の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事業サービス内容、質、規模等は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている アイ. ある程度 ウ. いない	狂犬病は依然海外での発生がみられるため、狂犬病予防事業の継続は必要である。

[2]有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[2]の評価

A

②期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている アイ. ある程度 ウ. いない	日本の周辺国では依然として狂犬病の発生はあるが、国内発生はなく、予防接種等により狂犬病は予防されている。
③今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある アイ. ない	広報やホームページで普及啓発するとともに、獣医師・ペットショップと連携し、予防接種の必要性を飼主に認識してもらい、予防接種頭数を増やす。
④庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし アイ. できる ウ. できない	—

[3]効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[3]の評価

A

⑤成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	人件費以外の事業費は低額であり、これ以上の削減は困難である。
--	----------------	--------------------------------

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理
	A	大阪府獣医師会と連携し、狂犬病予防のため登録や予防接種の普及啓発を行い予防接種頭数を増やす必要がある。

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

ア	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 	ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止 (___ 年まで) (___ 年から) (___ 年から)
	<今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)	
①改革、改善の具体案、実施年度など	—	
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—	